

### 磐城高校の宝物

正面玄関にある壁画をご存知ですか。作者は、田口安男氏（本校高校第1回卒 東京芸大 千葉県在住）で、題名は、「天と地の時間」（600号）です。

本校旧職員の蓬田先生から創立85周年記念行事当時のいきさつを教えてくださいました。

本校の今の校舎に校舎改築となり、その記念式典として85周年行事が計画されました。その記念となる作品を募ることとなり、同窓会の議論の中で絵画にしてはどうかという意見が多数を占め、当時、日本絵画展で安井賞を受賞された同窓生の田口氏に依頼しようと話が決まったそうです。

当時美術担当の田中四郎先生と美術室によくいらっしやっていた蓬田先生が、安井賞受賞記念展に出かけて、先生に依頼されることとなりました。

お二人は勇を決して申し出てみると、快く了解されたということです。

田口先生のご実家は、平の五丁目に履物店を営んでいて、そのつながりからも蓬田先生はご縁があったということです。

その後、田口先生は機会を設けて、冬のある寒い日に来校され、国の重要文化財である天冠埴輪の存在を知り、安井賞受賞のモチーフであった「手」とつなげ、それをモチーフにして、作品を構想され、600号の大作を完成されました。

当時の同窓会長の市井茂氏は、そのことに感動し、200万円の御礼を送付したとのこと。因みに、市井さんの子孫は今、2年生に在学していません。

当時の美術界の評価としては、数千万はくだらないだろうという作品だそうです。

ご存命の田口先生がいつの日か、今の磐城高校にいらしていただければ幸甚この上ない喜びです。今、男女がさっそうと登校する現況を見ていただければ、新しい磐城高校の風を感じられ、新たな作品になるかもしれません。

いわきの美術部の生徒たちの作品を見ていただくこともできるかもしれません。東京芸大を目指している卒業生や生徒たちも数多くいます。新しき磐城の風を高月から発信していきましょう。

「天と地の時間」は、これからも永遠に磐城高校に流れていくのです。

